

令和 7 年度事業計画

1 自転車の安全利用に関すること

(1) 安全・安心な自転車利用促進事業

各種イベントでの啓発を実施。また、自転車安全利用指導員（委託）による交通安全教室や自転車安全利用啓発、自転車販売店に対する指導を実施する。

- ・ビワイチの日関連イベント（11 月 3 日）

(2) 安全利用WGの開催

3 月頃に開催予定

自転車事故の発生状況報告や、事業の実施結果や計画について報告、協議を実施する。

(3) 課題

自転車用ヘルメットの着用率の向上（特に高齢者・高校生）

2 自転車ツーリズムに関すること

(1) 事業概要

ビワイチの魅力を国内外に発信するとともに、子どものビワイチ体験を促進するなど、ビワイチの体験者層の拡大を図ることにより、本県の観光振興および活力ある地域づくりを進める。

令和 7 年度においては、特に、万博開催を契機とした誘客や県北部地域の周遊の取組、シガパークを活用したビワイチ体験の促進などに新たに取り組むことにより、体験者層の拡大を図る。

(2) 課題

- ・県外におけるビワイチの認知度は県内ほど高くなく、宿泊者や県外からの来訪者の割合を向上させる必要がある。
- ・ビワイチ体験者には偏りが見られ、体験者の多くを中高年の男性が占めている。
- ・サイクリストの交通ルール遵守や走行マナーの向上に向けた取組が必要。

(3) 取組項目・予算額（前年度予算額）

新①北の近江サイクリング周遊促進事業 2,118 千円（－ 千円）

米原市・長浜市・高島市の 3 市を対象としたデジタルスタンプラリーを実施することにより、北部地域への誘客を促進する。

②ビワイチ・プラス等デジタルスタンプラリー事業 700 千円 (1,400 千円)

県内各地の魅力ある観光資源を活用したデジタルスタンプラリーの開催を支援し、身近な地域における自転車散策を推進する。

③サイクリングマイレージ推進事業 1,100 千円 (1,600 千円)

「サイクリングマイレージ」を活用したマイレージ事業の実施に必要な広報・啓発を実施する。

④「シガパーク」を活用したサイクリング周遊促進事業 17,626 千円 (ー 千円)

アプリに休憩のタイミングや立ち寄りスポットを自動提案する機能を新たに追加すること等により初心者層をはじめとする多くの利用者の体験・周遊につなげ、経済効果の増加を図る。

⑤「ビワイチの子」体験促進事業 2,700 千円 (2,700 千円)

モデルルート造成に向け、参加しやすく、かつ多くの意見等を取得するため、県内の各地点で、それぞれの地域の特性を生かした募集型の子ども向けガイドツアーを企画・実施する。

⑥サイクリングガイドツアー振興支援事業 100 千円 (973 千円)

訪日外国人観光客など長期滞在者の需要を取り込むため、研修会を実施することにより県内のサイクリングガイドを育成する。

既にガイドとして活動している者に対しては、訪日外国人観光客の関心事項である「持続可能な観光」に係る取組の必要性を研修する。併せて、インバウンドツアーを先進的に取り組む事業者を招請する。

また、新規ガイド人材を対象として、サイクリングガイドに必要な知識・情報を共有する研修会を開催する。

⑦サイクリスト向け安全啓発リーフレットを活用したマナー啓発 1,100 千円 (1,770 千円)

サイクリスト向け安全啓発リーフレットを作成（増刷）し、県内各地で実施する街頭啓発における配付、自転車販売店やレンタサイクルショップ、サイクルサポートステーションへの配架により、安全啓発を実施する。

⑧サイクリング体験・安全教室 500 千円 (1,000 千円)

新たなサイクリング人口の創出に向けて、親子などがサイクリングを始めるきっかけになるよう、サイクリング体験イベントを実施する。

⑨ビワイチの日、ビワイチ週間推進事業 4,500 千円 (4,750 千円)

広くビワイチについての関心と理解を深めるとともに、ビワイチへの意欲を高め、愛着と誇りを育むため、「ビワイチの日」「ビワイチ週間」に集中的にイベントを開催する。

⑩サイクルサポートステーション研修会 100 千円 (880 千円)

サイクルサポートステーション登録施設 (357 か所 (令和 6 年 12 月末時点)) の「おもてなし」力の向上を図り、サイクリストの満足度を向上させるため、サービスの事例紹介など様々な情報を提供するサイクルサポートステーション向け研修会を有償にて開催する。

⑪サイクリストにやさしい宿利用環境促進事業 100 千円 (1,500 千円)

滋賀を訪れるサイクリストが快適に、安心して宿泊できる認定施設「滋賀県サイクリストにやさしい宿」のサイクリストの更なる利用を促進するため、「おもてなし力」向上のため研修会を実施する。

⑫レンタサイクルワンウェイ事業 800 千円 (3,175 千円)

自転車によるビワイチ・プラスルートの多様な楽しみ方を広げるため、利用しやすいレンタサイクル環境の整備を促進するため、レンタサイクルの途中返却拠点を拡大する。

⑬ビワイチサイクリングナビアプリの活用推進 6,200 千円 (6,200 千円)

「ビワイチサイクリングナビ」アプリ (DL 数 69,181 件 (令和 6 年 12 月末時点)) を活用し、自転車周遊を促進させ、ストレスフリーな受入環境整備を図る。

⑭アプリを活用したデータ解析 4,500 千円 (4,500 千円)

琵琶湖一周サイクリング体験者数の測定に加え、県内各地を周遊するビワイチ・プラスルートの体験者数および経済波及効果の解析方法を新たに確立するとともに、県全体のサイクリング体験者数、サイクリスト特有の行動形態、観光消費額等を属性分析し、新たな観光資源の発掘等に活かす。

新⑮びわ湖材を活用したビワイチ観光推進事業 367 千円 (― 千円)

県産木材を使用した商品を開発することにより、サイクリストに対し、県産木材の魅力を普及し、その利用促進を図る。

⑯ビワイチ・プラス等イメージアップ推進事業 100 千円（600 千円）

女性や家族連れを対象に、市町と連携して「ビワイチ・プラス」の多様な楽しみ方紹介などを、インフルエンサー等を活用して発信する。

⑰全国イベント等と連携した魅力発信事業 2,246 千円（4,710 千円）

日本最大の自転車フェス「サイクルモードライド」やサイクリングイベント等に出展することで、「ビワイチ」を世界に発信し、国内外からの誘客を行う。

⑱万博等を契機としたビワイチ体験促進事業 4,846 千円（－ 千円）

多くの外国人観光客が来場する万博から本県への誘客を促進するとともに、国スポ・障スポで活用されたルートを活用して県内観光を促進するため、「ビワイチ」を軸とした魅力発信、受入環境整備ならびに海外とのつながりを強化することにより、ビワイチの体験促進を図り、世界から選ばれるサイクルツーリズムを展開する。

⑲アドバイザーを活用した多様な連携推進 3,200 千円（3,300 千円）

サイクリストのニーズと事業者が持つシーズのマッチング、各施設でのサービス向上に向けたコンサルティング、アプリ広告枠等の営業活動等の実施に向け、官民連携による事務局体制の充実化を図る。

(4) 参考

+cycle 推進プラン（施策メニュー）	令和7年度事業
(1) ルール・マナー・安全	
ライフステージ(年齢層)・利用シーンに応じた自転車の楽しみ方・快適な乗り方とルール・マナーを併せた啓発の実施	⑧サイクリング体験・安全教室
観光客向けルール・マナー案内	⑦サイクリスト向け安全啓発リーフレットを活用したマナー啓発
びわ湖一周体験「風の子」	⑤「ビワイチの子」体験促進事業
(2) 情報発信	
サイクルサポートステーションの設置	⑩サイクルサポートステーション研修会

サイクリングルートの周知	⑬ビワイチサイクリングナビアプリの活用推進 ⑯ビワイチ・プラス等イメージアップ推進事業 ⑰全国イベント等と連携した魅力発信事業 ⑮びわ湖材を活用したビワイチ観光推進事業
自転車で滋賀をめぐる機会の創出	①北の近江サイクリング周遊促進事業 ②ビワイチ・プラス等デジタルスタンプラリー事業 ③サイクリングマイレージ推進事業 ④「シガパーク」を活用したサイクリング周遊促進事業 ⑥サイクリングガイドツアー振興支援事業 ⑨ビワイチの日、ビワイチ週間推進事業 ⑪サイクリストにやさしい宿利用環境促進事業 ⑱万博等を契機としたビワイチ体験促進事業
県内各地で自転車に関する活動をしている人々のネットワークづくり	⑲アドバイザーを活用した多様な連携推進
(3) 環境整備	
観光施策の中に自転車を積極的に取り入れる	⑭アプリを活用したデータ解析
レンタサイクル・自転車リースの推進	⑫レンタサイクルワンウェイ事業

3 情報発信に関すること

(1) プラス・サイクルホームページでの情報発信

【発信内容】

- ・自転車交通ルール
- ・サイクリングマップ
- ・滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する情報
- ・自転車店、レンタサイクル、駐輪場等の自転車の日常利用に資する情報
- ・サイクルツーリズムに関する情報
- ・自転車通勤の推進に係る情報
- ・自転車事故をはじめ自転車の安全啓発に関する情報
- ・その他自転車の利用促進のため必要な情報

他

(2) 情報発信WGの開催

- ・年1回開催し、情報発信の内容や方向性について確認する。

(3) 課題

- ・ライフステージごとの自転車利用促進
- ・サイトの使いやすさの向上
- ・レンタサイクル店情報に周辺の観光地情報を追加し、自転車の楽しさをより伝えられるように検討する。

4 自転車活用推進計画に関すること

(1) 第2次滋賀県自転車活用推進計画のフォローアップ

- ・計画期間は令和5年度～令和8年度の4年間
- ・自転車活用推進計画WGを年1回実施し、年度内の取り組みの評価・確認を行う。



第2次滋賀県自転車活用推進計画
(滋賀県 HP)

(2) 課題（WGでの主な意見等）

①市町版自転車活用推進計画の策定数が目標の10市町に対して2市である。

→引き続き、市町への作成方法等の情報提供・助言を行い、策定を支援する。

②橋梁等で自転車通行帯から車道混在となる場合（車道が狭くなる場合）の安全対策について。

→公安委員会との協議や実際の走行性検証などを検討中。

施策(5)関連②
 ビワイチの受入環境

昨年度自転車活用推進 WG 資料



(取組No. 47) 橋梁等で自転車通行帯から車道混在となる場合の安全対策を検討

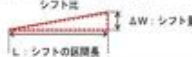
方針

- 道路空間に余裕がなく、自転車通行帯が連続的に確保できない場合は、上図の例を参考に安全対策を実施する。
- シフト区間長は、9.0mとする。

考え方

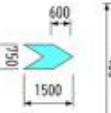
- 屈曲部のシフト比 1:4以上 (※1)
- シフト量は、 $\Delta W \approx 1.5m$ (自転車通行帯の標準幅)
- シフト区間の前後も、青矢羽根を設置 (※2)
- 拡幅区間は対策不要 (※2)

※1 屈曲部のシフト比は、自転車ガイドライン(E-16.2) 時速15km/hを想定したシフト比 1:4 以上を採用
 ※2 青矢羽根は、自転車ガイドライン(E-16.2)シフト区間の前後に設置



路面表示

○青矢羽根 ●注意喚起(自転車向け)



注意看板

●注意喚起(自転車向け)



注意喚起は、事前周知のため自転車通行帯終点部から40m手前を目安に設置すること。

10

施策(5)関連②
 ビワイチの受入環境整備



(取組No. 47) 施工事例

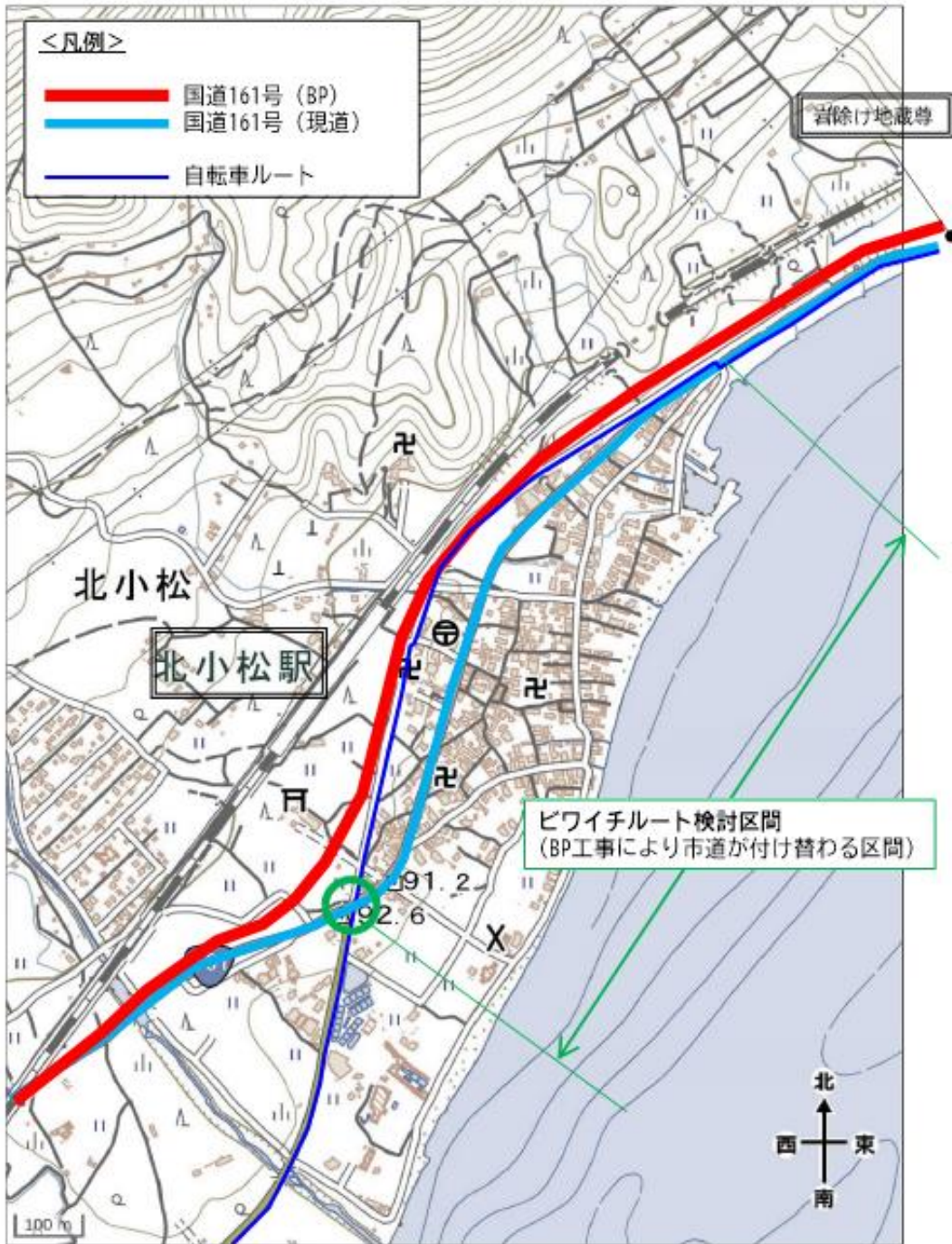



(近江八幡市)

11

- ③国道 161 号の国施工中である暫定区間の完成形態（ルート等含む）について。
→望ましい形態について検討中。

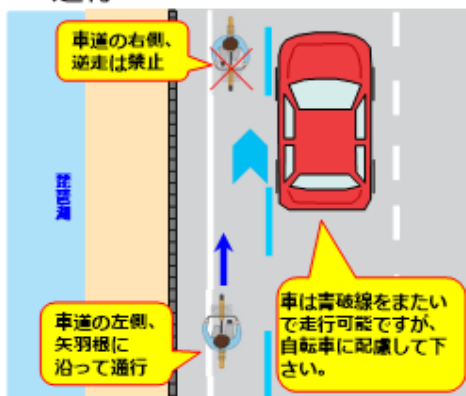
地理院地図



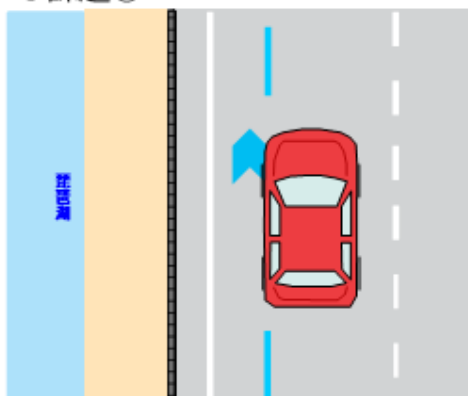
④車道混在区間において、自転車が車道センター側に寄っており危険。青破線の意味についての発信不足。

→矢羽根および青破線の位置を車道端にすることでサイクリストを端に誘導できないか検討中。引き続きルールについて発信する。

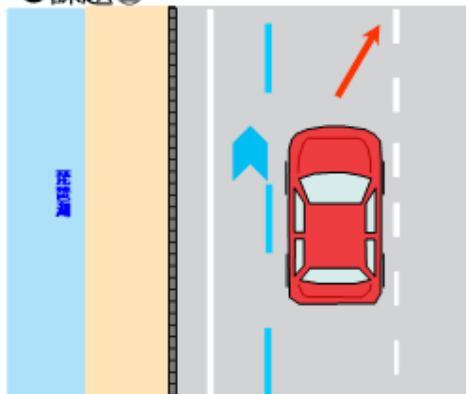
■通行ルール



●課題①



●課題②



●課題③

